



郡家東小学校 大西 もも

私は、韓国に行き、大好きな K-POP ダンスが体験できてうれしかったです。

はじめは横城の友達と仲良くなれるか少し心配でしたが、スマホの通訳アプリを使って話したりして仲良くなることができました。帰る時は、八頭町の友達とも名前で呼び合えるくらいに仲良くなれました。また会った時にもたくさん話したいです。

郡家西小学校 上根 或夢

横城の友達と初めはお互いうまく話せなかったけど、お互いの言葉を真似し合ったり、簡単な英語を使ってコミュニケーションを取りました。

この交流事業で思ったことは、国が違う、言葉が違う、礼儀も違う、文化も違う、でもすぐに友達になれるし、仲良くもなる同じ人間だということです。とても良い経験ができたし、素敵な体験ができたことをうれしく思っています。

郡家西小学校 山中 朱璃

私が日韓子ども交流で心に残ったことは、歓迎式での小学生で構成されたオーケストラ演奏です。1人で堂々と日本語で「犬のおまわりさん」を歌う姿がかっこよかったし、何時間も練習したんだろうなと感動しました。最後の日は八頭町の友達みんなが仲良くなることができました。来年も交流事業があったら他の人に応募するよう薦めたいです。

船岡小学校 西原 琉惺

僕が1番びっくりしたのは、食文化です。日本では左手でお皿を持つけど、韓国ではお皿が真鍮でできているからお皿を持たないところ。お皿を持たないことに慣れていなかったの、何回も「あちっ」てなりました。

11月に横城の友達が日本に来るときには韓国語を言えるようになっておきたいです。この交流をいろいろな人に広めていきたいと思いました。

八東小学校 植木 まりあ

韓国に到着した時、横城の友達に温かく迎えてもらったことがうれしかったし、来てよかったと実感することができました。最後の日は横城の友達としばらく会えなくなるので寂しかったけど、明るく送り届けてくれたので、今度は自分たちが歓迎してあげようという気持ちになりました。

小学校生活の中で良い思い出、良い経験になったと思います。横城の友達にまた会いたいです。

郡家東小学校 横山 紗栄

私はスポーツ交流が一番心に残っています。バスケットボールでは、シュートが決まらなくてくやしかったけど、ドッジボールは3連勝できたのでうれしかったです。

韓国は食べる物が違って、朝ご飯の量がとても多いことに驚きました。3泊4日の短い間でしたが、いろいろ貴重な体験ができて良かったです。

郡家西小学校 森下 悠生

横城の友達は、よく達が韓国語をうまく話せないと分かん、英語やジェスチャーを使ったり、それでも分からない時には翻訳機を使ったりと優しく接してくれました。

今度、横城の友達が八頭町に来る時には、少しでも韓国語や英語を話せるようになって、「八頭町は素敵なおところだな」と思ってもらえるようにしたいと思います。

郡家西小学校 岸野 里緒菜

最初は、韓国語があまり話せないからとても緊張していたけど、バスに乗ってすぐに、イ・ガインさんが「こんにちは」と話しかけてくれて、少し緊張がほぐれました。

最終日は横城のみんなとグータッチをしてお別れました。とてもいい経験ができました。11月の交流で会えるのが楽しみです。

船岡小学校 中山 大瑠

今回の横城郡訪問は、より親交を深められるようなプログラムで、楽しみつつ文化などを学ぶことができました。

みんなで朝昼晩と一緒に食事をしたり、K-POP ダンス体験やスポーツ交流、合同合宿などを通じて、楽しく話をしながら仲を深めることができ、幸せな時間を過ごすことができました。

八東小学校 中西 ゆい

私は、日韓子ども交流事業に参加して、横城郡の文化や韓国の料理について学ぶことができました。

食事は、韓国は辛いものだけだと思っていたけど、魚やきのこの鍋など辛いものがないものがたくさんあったので食べやすかったです。

横城郡の人達や日韓子ども交流事業をしてくださった人達がよくしてくれたので、次に横城の友達が来るときには八頭町を楽しんでほしいです。



国際的な視野をもったこどもたちの育成を 日韓子ども交流事業 2024

5年ぶり開催



新型コロナウイルス感染症の拡大により中断していた日韓子ども交流事業が5年ぶりに再開となり、8月16日（金）から19日（月）に、八頭町の子どもたち10名と韓国 横城（フエンソン）郡の子どもたち10名で韓国 横城郡にて交流を行いました。

子どもたちにとっては、外国の文化や言葉に触れる良い機会になりました。今後の活躍が期待されます。

初日に韓国の空港で横城郡の子どもたちと初めて会ったとき、最初は少し緊張気味でしたが、すぐに打ち解け、次の日からは、パリオリンピックに負けにくいほどの熱いスポーツ日韓対決が繰り広げられました。ドッジボールなどのスポーツを通して、時に悔し涙を流すくらい感情があふれ出し、最高に盛り上がりました。しかし、対戦が終わった後は、ノーサイド。相手を称え、笑顔で握手する姿はとてもさわやかでした。スポーツは言葉を超えて心が通じ合えることを改めて感じた瞬間でした。

スポーツ交流以外にもたくさんの交流がありました。八頭町の小学生合唱団と横城郡の小学生オーケストラによる夢の競演が実現し、韓国童謡「故郷の春」を堂々と歌い、多くの拍手をいただきました。また、横城郡の子どもたちと一緒に部屋に宿泊しました。どんなやりとりが行われていたのか想像するだけで楽しくなります。このような濃密な時間を過ごし、11月の八頭町での再会を楽しみに日本に戻ってきました。

私は、この4日間を通して、横城郡と八頭町の子どもたちの姿で心に残ったことがそれぞれあります。

横城郡の子どもたちで心に残ったのは、つながろうとする姿です。代表で交流の振り返りを発表するときに、長い文をすべて日本語で話す姿に感動しました。八頭町の子どもたちの姿で心に残ったことは、チームワークの良さです。ウォータープラネット（複合型プール）では、広い敷地の中で離ればなれになって困らないように常に10人で行動を共にする姿はとても微笑ましかったです。

この4日間は、子どもたちにとって心に残る楽しい夏の思い出になったと思います。そして、言葉が通じなくても相手の気持ちを考えて行動することで通じ合えた経験は、一生の財産になると思います。

5年ぶりの開催に向け、多くのハードルがあったのではないかと思います。横城郡と八頭町の多くの方々が子どもたちの成長を願い実現できたのだと思います。この交流事業に関わられた全ての方々の熱い思いと努力に敬意を表すとともに、お礼申し上げます。心を込めて、「カムサハムニダ！」

八頭町教育委員会 参事 前田 徹